

第1回 栗東市地域福祉計画委員会 要点録

(2024年7月22日作成)

1	会議の名称	栗東市地域福祉計画委員会ならびに栗東市地域福祉活動計画委員会			
2	会議の開催日時	2024年7月22日(月) 午後1時半～3時半			
3	会議の開催場所	栗東市役所危機管理センター大研修室	公開の可否	(可)一部不可・不可	
4	事務局(担当課)	社会福祉課	傍聴者数	0名	
5	非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む。)の場合)				
6	協議事項	(1)「第4期栗東市地域福祉計画」に係る令和6年度事業計画 (2)「第3次栗東市地域福祉活動計画」に係る令和6年度事業計画 (3)グループワーク			
7	審議等の内容	別紙のとおり			

栗東市地域福祉計画委員会ならびに栗東市地域福祉活動計画委員会 要点録

2024年7月22日(月)開催

開会

事務局（栗東市）

定刻になりましたので、栗東市地域福祉計画委員会ならびに栗東市地域福祉活動計画委員会を開催します。開催にあたりまして、市民憲章を唱和します。

（市民憲章唱和）

事務局（栗東市）

健康福祉部長よりご挨拶申し上げます。

（挨拶）

事務局（社協）

続きまして、社会福祉法人 栗東市社会福祉協議会 平田善之会長、ご挨拶をお願いします。

（挨拶）

事務局（栗東市）

ありがとうございました。本日の進め方でありますと、2部構成とさせていただきたいと思います。まず第1部は報告事項を説明させていただきます。地域福祉計画と地域福祉活動計画について今年度の事業計画を報告させていただきます。

その後、第2部として皆様方からご意見を頂きたいと思います。皆様方は常日頃から市内において様々なお立場で地域福祉に関わって頂いている方ばかりであります。そのような皆様の多様なご意見を頂くため、通常の会議形式ではなく、少人数のグループに分かれてご意見を交換していただく方式、グループワークを取り入れたいと思います。ご協力をお願いいたします。

今回お集まりいただきました皆様におかれましては、本日が今期最初の会議でありますので、自己紹介をお願いしたいと存じます。順に一言自己紹介をお願いします。

（各委員紹介）

公開について

事務局（栗東市）

本日の委員会につきましては、19名の委員のうち15名の委員が出席しており、本委員会が成立していることを報告します。加えまして、当会の開会にあたりまして3点ご確認をお願いします。

1点目でございます。

本日の資料を確認します。（順番に確認）

2点目です。

地域福祉計画及び地域福祉活動計画の委員委嘱につきましては、本日から令和8年3月31日までとさせていただくこと、ご了承の程よろしくお願い申し上げます。

また地域福祉計画及び地域福祉活動計画の委嘱状につきましては、本来ですと市長もしくは社会福祉協議会会长が手渡しさせていただくものですが、勝手ながら机の上に置かせていただいており

ますので併せてよろしくお願ひいたします。

3点目です。本市では「栗東市附属機関等の会議の公開に関する要領」において会議は基本的に公開となっております。ただし、内容によって非公開に該当する事項がある場合は協議により公開・非公開の決定をいただきます。会議を非公開とするのは主として個人情報や財産の保護、事業の意思形成過程にあるため公開にすることで支障が生じる場合などです。この委員会においてはそのような理由に該当する事項がありませんので基本的に公開するものと考えられます。また議事録においても同様です。

つきましては、この会議の公開とすることについてお決めいただきたいと思います。

この委員会を公開としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

ご異議等ないようですので、本委員会を公開といたします。

なお、本日は公開に伴い傍聴を希望される方はおられませんでしたので、ご報告申しあげます。

(1) 委員長・副委員長の選出について

事務局（栗東市）

それでは、協議事項に移らせていただきます。

本日は第1回目でありますので、現時点で委員長及び副委員長が選出されておりません。したがいまして、委員長、副委員長決定までは事務局で議事進行させていただきますのでよろしくお願ひします。

まず、「協議事項（1）委員長及び副委員長の選出について」でありますが、本会の規定により「委員長及び副委員長は委員の互選とする」と定められております。どのようにお決めさせていただきましょうか？お諮りいたします。

計画委員：「事務局案でいかがでしょうか。」

特にご意見等無いようでしたら、事務局案を提示させていただいてもよろしいでしょうか？

計画委員：「異議なし。」

それでは、事務局案を示させていただきます。

委員長につきましては、地域福祉計画につきましては、本計画の策定の段階から委員長として関わっていただきました龍谷大学の村田委員に、また副委員長についても同様に栗東市社会福祉協議会の平田委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

計画委員：「異議なし。」

それでは、村田委員長、平田副委員長、よろしくお願ひします。

事務局（社協）

続きまして、栗東市地域福祉活動計画委員会の委員長及び副委員長の選出について、お諮りします。

設置要綱には「委員の互選により定める」となっています。どのようにいたしましょうか。

活動計画委員：「（事務局案で）同様で良い。」

同様でいいとのことですので、委員長は岡野委員、副委員長は池田委員に継続してもらってはどうでしょうか。

計画委員：「異議なし。」

事務局（社協）

それでは、委員長は岡野委員、副委員長は池田委員に決定させていただきます。

どうぞよろしくお願いします。

事務局（栗東市）

それでは、栗東市地域福祉計画の協議事項に入ります。

以後の議事進行につきましては、本会の規定により、委員長が議長を務めることとなっておりますので、村田委員長よろしくお願ひいたします。

村田委員長

改めまして、進行を務めさせていただきます、村田です。どうぞよろしくお願ひいたします。暑い中、参考いただきありがとうございます。委員長として第2期の地域福祉計画の策定よりお世話になっております。途中から社会福祉協議会の活動計画と足並みを揃えて同じ方向を向いて、委員の皆様方も変わることなく、多くのご専門の皆さんに関わっていただきながら進めてこられたことありがとうございます。先ほど部長のご挨拶の中にもありましたように、今回初めてゼミ生を連れてまいりました。学生達の意見も組み入れていただいて、第4期地域福祉計画ならびに第3次地域福祉活動計画がより具体的に、実現可能な、実践力のある計画として進めていっていただければと願っております。本日、前段には今年度の事業計画について皆様からご意見をいただくことになっておりますのでぜひ忌憚のないご意見をいただければと思っております。

(2)-① 第4期栗東市地域福祉計画に係る令和6年度事業計画について

村田委員長

協議事項の（2）-①について、事務局より説明をお願いします。

事務局（栗東市）

（資料1に沿って説明）

村田委員長

ただ今の説明について、ご意見やご質問はございませんか。

委員

資料1の17ページにある『社会資源』の検討をどう考えたらいいのか、具体的にどう検討するのかを教えてほしい。

事務局（栗東市）

一般的に社会資源には、人的資源・物的資源があります。人的資源は、ほかの団体の取り組み、人と人とのつながりを活用できないか。物的資源は、その施設を使えないかそういった意味での活動などを検討していくことです。

委員

多角的な色々な機関などを使いながら、広範囲で取り組んでいくということでしょうか。

事務局（栗東市）

そうです。

村田委員長

『社会資源』は福祉の分野にいるとよく使う言葉で、学生たちも早い段階で聞くキーワードの一つですが、具体的に説明することが難しいです。『社会資源』には、人的資源・物的資源という大きな分け方があります。また、法律・法整備も含めて、『社会資源』呼ぶこともあります。必要な制度・サービスを含めて、一人の困っている方サポートが必要な人に対して、ありとあらゆる『社会資源』を使いながら社会の中で孤立しない、生活を継続させていく。私だけでは気づくことが出来ない『社会資源』もありますので、それぞれの専門分野で活動されている皆さんだからこそ気付ける『社会資源』もあります。だからこそ多くの人からご意見を出し合いながら社会資源を見つけていく、新たに作っていくには有効な話し合いだと思います。後段で、お願ひしたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

委員

N0533の家計改善支援事業とはどのような支援なのか教えていただきたい。家の裏に住んでいる方が、「私、通帳を持っていない。ケアマネジャーが通帳を預かって家計を管理している。」という風に聞いたことがある。どのように説明してあげたらいいのか分からないので教えていただきたいです。

村田委員長

他の制度を利用されているかもしれません、家計改善支援事業の説明をお願いいたします。

事務局（栗東市）

家計改善支援事業とは、生活困窮世帯あるいは生活保護世帯でお金の收支、収入と支出のバランスが逆転してしまっている世帯に対して家計をお預かりさせていただいて使用方法などを一緒に

考えて指導させていただく事業です。この業務につきましては社会福祉協議会に委託させていただいております。生活困窮の改善を図っていく事業でございます。

委員

通帳は持つてあげているということですか。

事務局（社協）

地域福祉権利擁護事業というものがございまして、家計改善支援事業とは別の事業になります。この事業は契約の元、日常的な金銭管理として通帳をお預かりしまして日々の生活を安定させる事業があります。ケアマネジャーはおそらく預からないと思います。ご確認いただけたらなと思います。

村田委員長

福祉のサービス事業というのは、どの事業、どの専門職関わってくださっているのか、ご本人や周りの方々も合致していない場合があります。その都度、事務局含め聞いていただけると、皆さん自身がそうなのか、なるほど違うサービスもあるのかと気づいていただく機会にもなります。家計改善支援事業とは生活困窮者の家庭に対してある意味、指導していくものです。生活困窮に陥る世帯は、収支の入りと出が全くちぐはぐになってしまいます。収入があっても出費がそれ以上になってしまふ世帯もあります。ご本人が気づかないことに対して、家計改善という指導・支援をしていくものになります。金銭管理はまた別の事業になります。事務局からの説明にもありましたが、ケアマネジャーが預かることはないと思われる所以、ケアマネジャーはご本人が知っている専門職の名前だったかもしれません。資料1の一覧として出てくる、皆様の関係している分野はわかると思いますが、初めて見る文言もあると思います。わからないことがあれば事務局に聞いていただき、それを知った代表の皆さんのが各団体や地域に伝えてくださることがこの計画委員会の意義になります。

(2)-② 第3次地域福祉活動計画に係る令和6年度事業計画について

事務局（社協）

続きまして、栗東市地域福祉活動計画の協議事項に入ります。
この議事の進行につきましては、岡野委員長、よろしくお願ひします。

岡野委員長

(挨拶)

それでは、「第3次地域福祉活動計画」に係る令和6年度事業計画について、社協事務局より説明を求めます。

事務局（社協）

説明させていただきます。

資料2：「第3次地域福祉活動計画 令和6年度進行表」

資料3：「令和6年度 ひきこもり支援に係る事業計画」

(資料3に沿って説明)

前回の委員会の中で、『ひきこもり』の支援事例において委員の皆様からグループワークでご意見をいただきました。そのご意見を参考に、支援しました経過を報告させていただきます。2点ございます。1点目は、外出する機会を生み出す支援です。現在、事例に挙がった方ですが週3回アルバイトをしております。職場の方に正しく教えてもらいながら、順調に勤務出来ているようです。2点目はレッテルを貼らない支援です。特別扱いせず、普通に接することを心がけています。挨拶は大きな声です、準備や片づけをする。約束の時間に遅れないように早めに行動する、社会人としての最低限のルールを伝えるようにしました。今では、はつきりと話すことが出来るようになり、社会参加を通して少しずつ生活リズム、コミュニケーションが変化している様子がみられ、嬉しく思っております。令和6年度の事業計画及び重点計画の説明については以上となります。

岡野委員長

ただいま、社協事務局より計画の説明がありましたが、委員の皆様から何かご意見やご質問ありますか？

委員

ひきこもりの相談内容を差し障りのない範囲で教えていただきたいです。どのような年齢層が多いのか、どちらの機関から紹介されて繋がったのかなど。

事務局（社協）

質問ありがとうございます。家族からの相談が多いです。最近になって、50代の相談が少し増えています。50代の相談となると、就労のことやひきこもりの期間が長くなっているケースもあるため一気に解決することが難しいです。アウトリーチが必要なケースも多く、長く支援が必要とされることが多いです。

委員

年齢の高い方の相談、家族の方も高齢になってきますよね。学校を卒業し、社会に出られ適応していく中で、何かしらつまずきがあつてひきこもられる方を最近沢山耳にします。私はひとり親の支援をさせていただいている中で、相談されるのが人間関係の中で相談することが難しい。親子で孤立してしまう家庭もある。離婚が成立していない家庭でご主人からのDVがあつて子どもを抱えて相談の内容が多い。私たちも相談されてもどのように回答したらいいのか分からぬ。多種多様な相談が増えている。大人も子どもも外に出る方が難しい。そういう方たちにどのように手を差し伸べていけばいいのか。お聞きしているとひきこもり相談の件数が少ないが、これから増えてこないことを祈っています。

事務局（社協）

ありがとうございます。ひきこもりの相談件数は、件数的には少ないと思います。内閣府が平成30年にひきこもりの統計調査をされたことがあります。全国で113万人ですね。推計で1万3000人。栗東市に換算すると666人になります。去年厚労省が調査され、全国で146万人で30万人増えています。これからまた、表に出てこないひきこもりの人が沢山おられるのだろうなと認識しています。

委員

学校に行きにくい子どもの居場所で、市内の小学生、学童保育所在籍及び学童利用経験者対象とされていますが、学童に行っていない子どもの、居場所の提供はお願いできないということでしょうか。

事務局（社協）

今年度始めた事業で、現場の職員と相談し、まずは学童に来たことのある子どもから対応していくことから始めています。昨年度、学童は行けているけど学校にいけない子どもを2名受け入れています。まずは職員が慣れてから、需要が高まっていけばそういうことも検討していかなければならない。

委員

知り合いのお子さんで、学童行かれていないのですが、学校に行きにくいというのを聞いておりまして1・2年ほどかけ徐々に学校に行けるようになったのですが、そういう児童がいることもふまえていってほしいです。そういうことをふまえて居場所を作ってほしいです。

事務局（社協）

分かりましたと言えないことが辛いところなのですが、現場の担当者とも協議してこういうご意見があったということを伝えます。

事務局（栗東市）

事務局（栗東市）の方から補足の説明をさせていただきます。今年、ひきこもりの事業を始めさせていただきまして、社会福祉協議会ともう一つ一般社団法人アトラスさんにその事業を委託させていただいております。社会福祉協議会の方は、全年齢対象というような形でもう一つの一般社団法人アトラスさんには、子どもから若者を対象というような形にさせていただいております。その中では当然、学校にいけない方や学童に行っていない方も対象とし相談を受けさせていただいております。

岡野委員長

他に、ご意見等ないようですので、進行を村田委員長にお返します。

村田委員長

以上をもって協議事項（2）を終了させていただきます。では議事進行を一旦、社会福祉課へお返しします。

事務局

第1部進行については、村田委員長様、岡野委員長様ありがとうございました。では、ここからは第2部の意見交換に移りたいと思います。会議の冒頭でも説明いたしましたように、本日はグループを作つてその中でご意見を交換していただきたいと思っています。休憩の間に職員が座席を動かしますので誠に恐縮ですが荷物を持って席の移動をお願いしたいと思います。

それでは10分間の休憩をはさみグループワークに移りたいと思います。

再開予定時間は 14時 40分（10分程度）とさせていただきます。

グループワーク分けについては、ネームプレートにグループ番号を記載しております。

《休憩》



(3) グループワーク

テーマ：『孤立・孤独に陥らない地域づくり』

～栗東市の良さを活かした各団体での取り組み、こんなのがあったらいいなを考える～



○1グループ

●「孤立・孤独」のイメージを共有

- ・体調が悪くなると外出や人と出会わなくなるようになる。
- ・一人暮らしの人だけでなく、家族と暮らしていても孤独を感じる人がいるのでは。
- ・外出がおっくうになり、人と接する機会が減る。
- ・親戚、友人がいない人。
- ・情報が入ってこない孤立もある。
- ・好んで一人でいるのか、仕方なく一人でいるのかで孤独感は違う。
- ・今のところ一人でも困っていないと言うが、地域の行事には参加される人がいる。
- ・一人暮らしをしている学生は、孤食になり孤独を感じる。

●栗東で使えそうな社会資源 （※社会資源：制度、機関、施設、人材、資金などがある）

- ・自治会での集まりの場。
- ・社協が関わる団体のネットワーク。
- ・大学生の力を活用（いっしょに活動）して、地域づくりにつなげる。
- ・コミュニティセンター、老人福祉センターなどの公共施設の活用。
- ・児童館が各小学校区にあることが栗東のウリ。
- ・高齢者サロン、百歳体操への参加。
- ・100歳大学の受講によるつながり。

●団体としてできること

- ・ボランティア活動に若い世代が参加することにより、高齢者も参加するようになる。
- ・趣味の会、サークル活動、サロン活動などの交流や参加の誘い。
- ・訪問による声かけによる安否確認、生活の相談。

- ・民生委員活動や各委員会への積極的に参加による情報発信、情報収集。
- ・ライオンズクラブ、ロータリークラブの活動。

●個人としてできること

- ・ボランティア活動への参加。
- ・スクールガードに参加。
- ・子どもに声をかける、あいさつをする。
- ・子ども食堂への大学生ボランティア参加は、子どもからすると「大学生が来てくれてうれしい」大学生も活動の場となり、お互いの居場所になる。

●こんなのあったらいいな

- ・年齢を問わないサークル活動。(混在化)
- ・自治会館、コミュニティセンターの開放。
- ・世代間交流ができ、気軽に行けるフリースペースがあればいい。

その他意見

- ・気になる地域住民がいても個人情報の壁がある。
- ・市の施設を借りやすくする。(毎月予約がしなくてもいいように)



○2グループ

●「孤立・孤独」のイメージを共有

- ・高齢独居・他市からの転入。(身寄りなし)
- ・家族と同居していても、会話がないなど寂しい思いをしている人。
(サロンでは周りの人々が話してくれる)
- ・高齢者に限らず、こどもについても家庭内で親が話を聞いてくれないなど寂しい思いをすると孤独になる。職場でも同様。いろいろな場面で起こりえる。
- ・社会全体として「思いやり」が希薄。枠(高齢、こども、障がい...)にとらわれない思いやりが必要では。

●栗東市で使えそうな社会資源を考え、次に委員の属する団体や委員個人として取り組めること。

さらに「あったらいい（社会資源）な」を考えました。

- ・自治会内での集いの場。
- ・（社会資源）広域の福祉施設（老人福祉センター等）
- ・人的支援（ボランティア、自治会、民生委員等）

●団体としてできること

- ・高齢者の健康維持や社会参加の場として老人クラブ活動があるが、担い手が減少している。
これは老人クラブに限ったことではなく、子ども会や若い人たちも同様。やる気がなくなっている。
- ・誰もが集える場が必要。（属性にとらわれない居場所）
- ・学校のプール等開放してはどうか。（以前はしていた）
- ・障がい者施設の開放が出来る。
- ・行政として関係課との横の連携。

●個人としてできること

- ・やっぱりやる気。ボランティアは思いで動く。でしゃばりでいい。「この指とまれ」で。
- ・自分自身がよい話し相手になりたい。
- ・趣味の活動や得意な活動をきっかけにつながりを広げる。

●こんなのがあったらいいな

- ・人生経験豊かな人材の発掘。
- ・世代を超えた取り組み。
- ・集える箱（さきらなどの施設）がある。栗東の著名人（武氏、森田氏、木村氏等）を招致し盛り上げる。人が集まるイベント。
- ・サロン等担い手のサポートや担い手ボランティアの発掘。



○3グループ

●「孤立・孤独」のイメージを共有

- ・子育ての仕方を自分自身では決めることができない子育て世代の親。自分と同じ思いの意見をSNSで探す。共感してもらえない状況にあると、孤立。

- ・地域の活動などに全く関与されない人は孤立しているように見える。
- ・コロナ禍を経て、外に出たい思いを実現するため、空き家に集まって週2回、おしゃべりとコーヒーで交流。そこまでも歩いて来られない人や、声掛けしても参加されない人は孤立しているか…おしゃべり会の参加は女性のみ。男性は？
- ・月1回のサロンに声をかけても来られない人、参加しない男性なども孤立しているか？しかし、男性など、好きな本を読んだりして、自分では「孤立している」また「孤独」とは思っていない。
- ・男性は他に趣味を楽しんでいる。
- ・学生でも、サークルに加入していない人など、授業とバイトだけの人は、しゃべる人もなく孤立しているかも。

●栗東市で使えそうな社会資源

- ・各自治会には自治会館、小学校区には、コミュニティセンター、児童館がある。今あるものを有効活用。
- ・自治会館やコミセンは、夜間や土日もつかえるはず。しかし、割増料金がいる？
- ・市内には多数のサロン活動がある。
- ・空き家を使って、自治会館よりも身近なところで開催するサロン活動。

●団体として、個人としてできること

- ・音楽愛好家に声をかける。音楽会を開催。世代をこえて交流ができる。
- ・男性ヨガ教室。（コミセンで実施しているヨガ教室は参加者のほとんどが女性。）
- ・利き酒会
- ・サロンやサークルなどの集い場への誘い。

●こんなのがあったらいいな

- ・サロン会場（地域の公民館）への送迎。
- ・スポーツファン（野球やサッカーなど）やアイドルファン同士の交流。（推し活）
- ・フリースペース（駅近くにあり、自由に使え、カフェや漫画なども設置していればなお良い）
- ・SNSでの正しい子育て情報の発信。（栗東市として、情報アプリがあると…）

●その他

- ・コロナ禍で何が変わったか？一番は葬式が「家族葬」になったことではないだろうか。サロンへの参加を誘いに行っても、葬式にもいかないのに、サロンにはいかない…と断られることもあるとのこと。

村田委員長

短い時間の中で、ご意見いただきましてありがとうございました。今日のグループワークは、改めてそれぞれが社会資源を確認する作業、新たな情報を持つて帰っていただく、逆に自分の持っている情報を提供する機会になったのではないかと思いました。

岡野委員長

皆様お疲れさまでした。色々な立場からの色々な発想を出されることが面白く思いました。印象に残ったことの一つに、家族や自分を中心にものを考えることが多くなり、地域のことを中心に考えること少なくなったというご意見がありそうだなと思いました。損か得か、メリット・デメリットの価値判断が求められる生活になってきています。例えばこうするとマイルやポイント、生活の要領の良さが求められてきています。そういうところが、社会としての在り方にあるのではないかと思いました。話を聞いている中で、

地域、組織としてのつながりがあるご意見と実際の姿をみさせていただきました。まさにそれこそが人の繋がりづくりで重層的支援体制と言われます。そこに大いに繋がっていくことが大切であると思いました。例えば、ひきこもり、家計改善、専門職そういう情報、繋がりが届いていくと良いのかと思います。私事ですが、ボランティアセンターに関わっていますが、広報誌を作つてそれを折つていれる作業をひきこもりの家族会に声をかけられて一緒に行っています。色々な情報交流が出来れば新しいつながりと可能性が広がっていきます。地域福祉計画と地域福祉活動計画は、住民とボランティア団体、専門家が繋がる場作りを進めていく、色々なテーマで話すきっかけがあるので、こういった取り組みをもっと広げていったらいいのではないかと思いました。

村田委員長

今日も貴重なご意見を出していただきましたこれをですね、委員長として事務局とまとめまして計画の推進に、役立てていきたいという風に思っております。事務局の方にお返しします。

事務局

村田委員長・岡野委員長、ありがとうございました。また、ご参加いただいた委員の皆様ありがとうございました。少し唐突ですが、私が小学生だった1970年代は、空き地でゴムボールを使って野球をし、また個人商店が沢山あった時代ですので友達と駄菓子を買って過ごしました。空き地や駄菓子屋に行けば遊び相手や話し相手が見つかったものです。何気なく足を運んだ先に心が落ち着く居場所が、家庭や学校以外にもありました。令和の時代となった今は、子ども食堂や民間のフリースクールなど昭和の時代にはなかった新たな子どもの居場所づくりが求められています。

「居場所づくり」が必要なのは子どもだけではありません。『居場所』については地域の皆さんにとっても関心が高いと感じております。『孤独感』は特別なことではなく誰もが持つ可能性があるかもしれません。孤独感が生きる力を失わせることは社会的に損失に繋がります。『居場所』について、各自治体の取り組みも始まっていますが、全国的にもまだまだ足りないといわれています。栗東市としましても、今回の意見を拝聴し社会福祉協議会と共にいただいたご意見を一つでも多く具現化し、幅広い方の地域参画が期待できるような居場所作りに取組んでまいりたいと存じます。ご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。本日のグループワークの様子を写真で記録させていただいております。ホームページや栗東市職員向けに発信している「らむね新聞」等に掲載させていただきたいと思いますよろしくお願ひいたします。以上をもちまして閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以上